

■ 新教材紹介



表紙絵「きいろいふうせん」にこめられた
思いも、掲載！熊本地震のこと、いのち・
家族について、ぜひ出会ってください。

低学年 教材名	内 容
せんせいちがう (共生)	バギーに乗って生活するももかさんと生活を共にする中で、繋がっていく子どもたちの姿を描いています。
ファンイーン (共生)	5歳で中国から日本にやってきたようこさん。日本語を学び、自分の思いが伝えられるようになった嬉しさを描いています。
ひいばあちゃんはわたしのじまんです (部落問題)	あんちゃんは、元気でおもしろいひいばあちゃんが大好きです。そのひいばあちゃんが、字が読めないことを乗り越えて、バイクの免許を取ったことに心動かされて・・・
うんこば、ばかにせんでよ (くらしと労働)	牛のうんこを前にして「くさーい。」と言う声。ふとしくんは、「うんこば、ばかにせんでよ」と叫びます。くらしと労働がつながっていることを学べます。
お母さんのしごと (くらしと労働)	どこのおうちの人も、みんな家族のために頑張っていることや、仕事への誇りをもっていることを考えさせてくれます。
わたしも学校に行きたい (共生)	かなえさんは、「学校に行きたい。」という気持ちを学習会で伝えます。その気持ちを聞いた友だちは、自分たちに出きることを考え、行動します。

高学年 教材名	内 容
ぼくの名前は葵です (共生)	「べつにおれが強くなったんじゃないなくて、まわりがふつうになったから。」という本人の言葉。私たちや社会が持たされた固定観念に鋭く声を上げています。
病気の人をばかにしない世界をつくるんだ (共生)	病気の姉をもつかっちゃん。姉のクラスに、その姉のことを恥ずかしいと思っている人がいることを知り、かっちゃんは、怒りを感じ伝えていきます。
おじいちゃんと私の故郷が大好きです (部落問題)	6, 26大水害では、部落差別を越えて、共に自分たちの故郷を復興した人々の思いと行動があった。復興のシンボルである水害記念碑に祖父の名前を見つけた子がいた。
ももかさんのなみだ (共生)	集中治療室で病気とたたかうことになったももかさんの元へ、担任の先生が教室の音を届けます。すると、眠ったまま意識の戻らないももかさんの目から一すじの涙がこぼれたのです。
いのちいっぱい (共生)	11歳半ばで逝った三咲さんが書いた、いのちいっぱい生きることの素晴らしさを教えてくれる作文です。今回は、その経過や写真が詳しく紹介されています
うちに生まれてよかったと思っています (部落問題)	水俣で出会った「(自分に誇りを持つためには) 自分の家族や生まれたところを詳しく知ることだよ」という言葉に、あゆみは元気づけられます。
なかまがいたから (共生)	かけがえのない友だちに出会い、困難にくじけず、自分の思いを伝えてきたかなえさんのお話です。
消しても消えない (部落問題)	自分の本当の思いに気づいた時に、行動が始まります。あかりは、差別落書きと自分や友だちの経験をつなげて考え続けます。
差別をなくすなかまでいたい (部落問題)	明子は、おじいちゃんから差別をなくす生き方を学びます。そして、差別をなくすなかまを広げるために、人の気持ちを受け止めることができる先生でいたいと思っています。
お父さんの思いや願いを受けて (部落問題)	自立宣言は生き方宣言。親と向き合い、生き様や思いや願いを聞き取り、綴り、語ることが差別をなくす生き方につながった、やすおさんの宣言文です。